

# 令和7年度 山梨県立韮崎高等学校 第1回学校運営協議会 会議録

- I 開催月日 令和7年6月6日（金）
- II 開催時間 午後2時30分から午後3時50分まで
- III 開催場所 山梨県立韮崎高等学校 視聴覚室
- IV 出席委員 韮崎市若宮自治会会長 横山美和子 令和7年度PTA会長 福井 太一  
同窓会副会長 岩下 和彦 定時制PETA会長 上野 政巳  
山梨県立大学客員教授 輿水 達司 韮崎市財務政策課課長 根津 昭彦  
地元企業役員 山田 七穂 韮崎市立韮崎東中学校校長 萩原 長人  
本校元校長 赤岡 正毅 NPO法人子育て支援センター  
ちびっこはうす理事長 内藤 香織  
校長 小笠原 宏 教務主任 窪田 幸彦
- V 出席職員 定時制教頭 吉川 仁 事務長 小林 芳昭  
生徒指導主事（全日制） 小泉 圭司 生徒指導主事（定時制） 成島 裕明
- ※ 欠席 全日制教頭 大木 賢一

## VI 会議要旨 <司会：窪田>

- 1 はじめの言葉 教務主任
- 2 学校長挨拶
- 3 学校運営協議会委員紹介（自己紹介）
- 4 山梨県立韮崎高等学校 学校運営協議会会長・副会長選出  
○会長 岩下和彦委員（同窓会副会長）  
○副会長 福井太一（PTA会長）、上野政巳（PETA会長）

[拍手をもって承認]

- 5 会長挨拶
- 6 議事 議長：岩下会長

### （1）令和7年度山梨県立韮崎高等学校学校運営基本方針について

校長： ① 学校要覧に沿って学校概況（生徒数、職員数、生徒居住地域等）について説明

### ② 次の資料内容について説明

- ・ P 6・・・山梨県が目指す教育について
- ・ P 7・・・韮崎高校指導重点（全日制）について
- ・ P 8・・・年間行事予定について ※ 体育祭は9月新築の韮崎市営体育館で実施
- ・ P 1 2・・・R 6年度進路概況について
- ・ P 1 3・・・SSHのR 7事業計画、研究開発課題、R 6成果課題研究等について
- ・ P 1 9・・・生徒指導に関する事項（題行動、交通事故・違反、安全指導）について
- ・ P 2 0・・・部活動 ※ R 7県高校総体結果を含む
- ・ P 2 2・・・韮崎高校指導重点（定時制）について
- ・ P 2 3・・・定時制における教育活動について
- ・ P 2 4・・・定時制在籍生徒数及び在籍生徒数の推移について

<質疑要旨>

議長：SSHを広げるとはどのようなことか？

校長：これまでのSSHの取り組みを生かして、全校生徒に探究型の授業を展開していきたい。

委員：教員数が減っているが部活動の指導者をどのように確保してくか？

校長：長期の視野を持って検討をする必要があると考えている。予算の問題もある。ので、教育ボランティアとして、大学生に外部指導者として部活動指導を依頼することも選択肢の一つとして考えている。

委員：サッカー部は部員が100人以上いるということだが、良い面もあると思うが多いことによる問題はありますか？

校長：現在は教員4人で指導に当たっている。葦高サッカー部は中学生にとっても憧れの存在であり、葦高に入ってサッカーをやりたいという生徒が多いことは素晴らしいことなので、その生徒たちを大切に育成する指導体制を整えている。

[原案通り承認]

(2) 令和7年度山梨県立葦崎高等学校学校評価報告書について

校長：①令和7年度山梨県立葦崎高等学校学校評価報告書について説明

教頭：②令和7年度山梨県立葦崎高等学校（定時制）学校評価報告書について説明  
(定時制)

<質疑要旨>

委員：防災避難訓練をどのように実施しているか？

校長：9月1日(防災の日)に地震、10月23日に火災に備えた訓練を実施している。避難経路を定め、職員会議で教職員に周知を図り、生徒にはホームルーム等で指導をしている。

委員：どのような訓練か？

生徒指導主事：予告あり、なしで実施をしたり、消火訓練を行ったり実践的に実施をしている。

委員：被災時の保護者対応はどのように行っているか？

校長：高校では引き渡し訓練は実施していないが、帰宅確認を行うようにしている。

委員：実際の被災時は減災という観点を念頭に置き、訓練・指導及び地域や保護者との連携と併せて、生徒には、自分の命を守る「自助」が最優先であるというご指導をお願いしたい。

委員：葦高は地域の避難場所にもなる。富士山の噴火や大地震、水害なども予想される中で、実際の場面に即した避難訓練の在り方の検討をお願いしたい。

校長：安心安全な学校づくりのためにも重要なことであるので、地域や学校の状況を鑑みて随時避難防災計画や訓練について見直し行っていく。

委員：災害時、学校が地域住民の避難場所になった場合の教育活動にどのような影響が出るかを考えて防災対策をする必要がある。

委員：私の自治会でも訓練で葦高へ避難をした。地域には障害を持った方や高齢者もいるが、スロープに物が置いてあり困った。地域住民の避難所になることを普段から考慮する必要がある。

委員：地域や自治会との連携が必要になってくる。備蓄食料は十分な体制があるか？

生徒指導主事：生徒分は水とクッキーがある。内容については今後も検討をしていく。

委員：葦高は県立だが、市立の葦崎東中はどのようなようになっているか？

委員：葦崎市と連携して、市が主導で防災計画が進められている。学校としては、学校再開に向けた計画を準備している。

委員：市の立場として、蕪高も蕪崎東中も指定避難所となっている。居住地によりどちらへ避難をするか棲み分けがされている。水害や大地震に備えて避難所の運営等も含めた防災計画を整備している。備蓄食料については蕪高と蕪崎東中に防災倉庫を準備して計画的に充実を図っている。

議長：学校と地域が連携・協働をして防災対策を進める必要があるので、役割分担について確認するための連絡協議会等が必要なのではないかと考える。防災以外のことでは何かあるか？

委員：昨年の学校アンケートにおいて、働き方改革の観点から部活動の負担が大きいとの意見があった。その際、部活動の外部指導者の増員について意見を出したが、まだ進んでいないとの回答を得た。具体的な検討をお願いしたい。

委員：働き方改革、生徒数が減ると教員定数が減る。先生方が元気じゃないと健全な子どもたちが育たない。先生方のメンタルサポートがどのような形で行われているのか教えていただきたい。

校長：学校に求められているものが増えている一方で、予算的な余裕もなく職員増も難しいので、業務の削減や圧縮をして、先生方の時間をいかに確保するかを今年1年模索していきたい。

委員：先生方が悩みを共有できる職員室の雰囲気づくりが重要である。

委員：学校への要求が多くなっている。先生方が精神的にも疲労が蓄積するが、一定の期間教員を休ませることも重要だと考えるが不可能か？

校長：心身の不調等による休職制度はあり、取得は可能となっている。年次有給休暇等の休暇も取得できるが、普段から先生方の様子を見ながら、さらに積極的な休暇の取得を促していきたい。

委員：息子はバドミントン部だが、外部コーチの方が平日の仕事を休んで指導をしていただいたことに感動をしていた。とてもありがたいことだが、謝礼や交通費はどうなっているか？また、学校全体で何人の外部コーチがいるか？

校長：外部指導者は7～8人程度ではないか。年間数万円謝礼が出ている。そのうち1人は県の事業を活用している。

委員：私の親族がバドミントン部の外部コーチとして、とてもやりがいを持ってやらせていただいている。そのように地域の人材活用をしていくとよい。

委員：先生方の働き方改革について、教育委員会が公立学校の教育職員令和8年度末までに時間外在校等時間で80時間を超える職員を0にする、令和11年度末までに月の時間外在校時間を30時以内にするという目標設定をしている。厳しい目標だが達成を目指してほしい。

委員：甲斐市在住の生徒数が増えてきている。地元が頑張らなければならない。地域との交流ができる機会が増えると中学校としてもありがたい。

[原案どおり承認]

(3) その他 なし

(4) 質疑 なし

## 7 連絡事項

### (1) 今後の予定

教務主任：10月24（金）第2回学校運絵協議会、2月12日（木）第3回学校運営協議会

### (2) その他 なし

## 8 情報交換、懇談 ※ 質疑に含めた

## 9 おわりの言葉 教務主任